

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	家庭基礎	普通科 農業科学科 海洋科学科 ビジネス科	1年 1年 1年 2年	2単位	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる (第一学習社)	自作プリント

<b>学習の到達目標</b>	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</li> <li>・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</li> <li>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</li> </ul>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な内容について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
定期テスト 作品課題	定期テスト レポート課題、ホームプロジェクト	グループワーク、発表、実習態度 レポート課題、ホームプロジェクト

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	家庭科の学び方ー学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは ・学校家庭クラブとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解している。</li> <li>・生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決に取り組もうとしている。</li> <li>・「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解している。</li> </ul>	○  ○		○
4	1章 これからの生き方と家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成しつつ、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解している。</li> <li>・誰もが同じような方法や選択で課題を達成するのではなく、一人一人が異なる過程をたどり、様々な生き方があることを理解している。</li> <li>・ライフステージの特徴と課題、ライフイベントと関連付けたり、職業選択、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を維持できる環境について考察したりして、生活設計を工夫している。</li> <li>・生活設計を通して社会の動きを見つめ、広い視野をもって生活を創造していくことや不測の事態にも柔軟に対応する必要性を認識し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。</li> </ul>	○  ○	○	○



月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
1   2	8章 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして 8章 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭経済と国民経済との関わりなど経済循環における家計の位置付けとその役割の重要性について理解している。また、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解している。</li> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、各ライフステージの特徴と課題、家族構成や収入・支出の変化、生涯の賃金や働き方、社会保障制度などと関連付けながら考察し、表現している。</li> <li>・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解し、生活情報を適切に収集・整理している。</li> <li>・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、表現している。</li> <li>・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。</li> <li>・持続可能な社会とはどのような社会であるか、また、安全で安心な生活と消費とはどのようなものであるかについて多面的・多角的に考察するとともに、生産と消費の在り方を含めてどのようなライフスタイルが工夫できるか具体的に考察し、実践しようとしている。</li> </ul>	○    ○  ○  ○	  ○   ○	       ○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
家庭	家庭総合	生活福祉科	1年	4単位	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社)	家庭科問題集 基礎編 (家庭科教育振興会)

<b>学習の到達目標</b>	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</li> <li>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</li> <li>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</li> </ul>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
定期テスト、課題提出、作品、実技テストなど	定期テスト（記述問題など）、レポート課題、グループワーク、発表、ホームプロジェクトなど	課題提出、グループワーク、発表、実習態度、ホームプロジェクト、学習の振り返りなど

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	家庭科の学び方ー学習から実践へ ・ホームプロジェクトとは ・学校家庭クラブ活動とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解している。</li> <li>生活の中から課題を見出し、個人単位で主体的に問題の解決の計画を立てることができる。</li> <li>「学校家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解している。</li> <li>ホームルーム単位または家庭科の講座単位、さらに学校としてまとまって、学校や地域の中から課題を見出し、グループ単位で主体的に計画を立てて問題の解決に取り組もうとしている。</li> </ul>	○  ○	○	○
4   5	5章 食生活をつくる 1節 人の一生と食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を取り巻く環境が変化している現状や健康で安全な食生活を営むための基本を理解している。</li> <li>自分の食生活を振り返り、課題を見出して見直しを図り、適切な食料消費の在り方について考察している。</li> <li>家庭や地域の生活のなかで、食文化を維持・伝承していくことの大切さを認識し、主体的に食生活の充実・向上につなげようとしている。</li> </ul>	○	○	○
5   6	2節 栄養と食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働き、各栄養素を多く含む食品を理解している。</li> <li>調理加工食品および健康食品の取り扱いについて、基本的な知識を身に付けている。</li> <li>健康増進のための食品について、表示を確認し、自分や家族の身体状況に応じて食品の選び方を工夫している。</li> <li>栄養素や食品について関心をもち、主体的に日常の食生活に応用しようとしている。</li> </ul>	○  ○	○	○
6   7	3節 食生活の安全のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の選択・購入にあたって、有機農産物や遺伝子組換え食品などの鑑別法、および食品表示・栄養表示の読み取り方を理解している。</li> <li>食中毒の原因と予防法など、食品の安全・衛生にかかわる基本的な知識を身に付けている。</li> <li>食品の安全・衛生の観点から、食品の選択・管理について主体的に判断し、食品を適切に扱うことについて工夫している。</li> <li>食品表示・栄養表示に関心をもち、日常から栄養のとり方に注意するなど実践的に取り組もうとしている。</li> </ul>	○  ○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4   5	6章 衣生活をつくる 1節 人の一生と被服 2節 被服材料と管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服と人との関わりを踏まえ、各ライフステージの衣生活の特徴や課題について理解している。</li> <li>・目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について考察し、表現することができる。</li> <li>・繊維、糸、布の代表的な種類とそれらの特徴、性能について科学的に理解し、適切な被服材料の選択や取扱いができる力を身に付けている。</li> <li>・洗剤の働きと汚れが落ちる仕組みや洗濯方法の特徴を理解し、被服の洗濯、保管などに関する基本的な技能を身に付けている。</li> <li>・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	○	○	○
6   7	3節 これからの衣服 4節 被服の製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の衣生活の変遷を通して、伝統的な和服の構成や材料、着装の特徴を理解している。</li> <li>・古くからの衣文化に蓄積された知恵や経験について考察し、表現することができる。</li> <li>・既製服の生産と流通、循環型社会の持続に配慮した衣生活のあり方について理解している。</li> <li>・布を使った伝統的な生活の工夫やエシカルファッションに関心をもち、衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を主体的に考え、実践しようとしている。</li> <li>・被服製作を通して、被服の基本構成や製作手順、採寸などについて基本的な知識・技術を身に付けている。</li> </ul>	○	○	○
9   11	5章 食生活をつくる 4節 食生活をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準やライフステージ別の栄養の特徴と食生活の課題、嗜好の変化などについて理解している。</li> <li>・家族の性、年齢、身体活動レベルに応じた摂取量のめやすから、家族の食生活の課題を見だし、改善策について考察している。</li> <li>・調理実習を通して、計量器や調理器具の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得している。</li> <li>・食品の栄養的特性や加工・調理、年齢に配慮した食事づくりなどに関心をもち、自己や家族の食生活の計画・管理に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	○	○	○
9   10	2章 次世代をはぐくむ 1節 子どもの発達 2節 子どもの生活 3節 子育て支援と福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。</li> <li>・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子どもの福祉について理解している。</li> <li>・乳幼児との触れ合いや交流、親子への観察やインタビューなどを通して子どもを生き育てることの意義や保育の重要性について考え、子どもの健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子どもとの適切な関わり方を工夫することができる。</li> <li>・保育に対するニーズが多様化していることも踏まえ、自分が住む地域の子育て支援策や課題を調べて意見交換するなど、主体的に地域の一員として子どもの成長に関わろうとしている。</li> </ul>	○	○	○
10   11	3章 充実した生涯へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けている。</li> <li>・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解している。</li> <li>・高齢化が進んでいる実態を把握し、その原因と課題を探るとともに、高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、適切な支援の方法や関わり方を工夫することができる。</li> <li>・高齢者の生活に関心をもち、高齢者が安心して自立的な生活を送ったり、活躍したりできる社会の実現に向けて、自分たちの視点でしくみづくりの提案をするなど主体的に行動しようとしている。</li> </ul>	○	○	○
12   1	4章 とともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。</li> <li>・家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解している。</li> <li>・ノーマライゼーションの理念を土台として、地域のバリアフリーやユニバーサルデザインなどについて具体的事例を通して考察し、様々な人々との関わり方を工夫している。</li> <li>・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、ボランティア活動に参加するなど、福祉の充実・向上を目指して主体的に行動しようとしている。</li> </ul>	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
12   1	7章 住生活をつくる 1節 人の一生と住まい 2節 住生活の計画と選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解している。</li> <li>・ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。</li> <li>・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理し、これからの住まい方を考察し、工夫することができる。</li> <li>・生活の拠点としての住居の重要性を認識し、よりよい住空間やまちづくり、日本の住文化の継承・創造に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	○  ○	  ○	  ○
2   3	8章 経済生活をつくる 1節 私たちの暮らしと経済 2節 消費者問題を考える 3節 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計の構造やリスク管理も踏まえた家計管理の基本、生活における経済と社会との関わりについて理解している。</li> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連づけて考察し、工夫している。</li> <li>・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについても理解している。</li> <li>・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、工夫することができる。</li> <li>・消費者としての権利と責任について明確な認識をもち、日常の中で課題意識をもって実践的に取り組もうとしている。</li> <li>・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。</li> <li>・消費者の立場として、安全で安心な生活と消費及び生活文化について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・自己の行動が現在及び将来の世代にわたって影響を及ぼすことを自覚し、主体的にエシカル消費に取り組もうとしている。</li> </ul>	○  ○  ○  ○	 ○  ○  ○	   ○   ○
2   3	1章 これからの生き方と家族 1節 生涯の生活設計 2節 家族・家庭と社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。</li> <li>・生活の営みに必要な家族、金銭、空間、生活時間などの生活資源について、それらに関わる情報を収集・整理することで、生活資源を有効活用したり、生活の中での様々なリスクへの対応や回避に役立ったりすることを理解している。</li> <li>・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計に取り組もうとしている。</li> <li>・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解している。</li> <li>・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。</li> <li>・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察し、工夫している。</li> <li>・多様な人のワーク・ライフ・バランスを維持できる環境づくりや多様な家族への支援が求められている現状に関心をもち、話し合ったり、学び合ったりしながら生活の充実・向上に結びつけようと主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	○  ○  ○  ○	   ○   ○	   ○   ○